

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタL&Fカスタマーズセンター大阪	階数	地上4F、塔屋1F
建設地	吹田市芳野町1500-51	構造	S造
用途地域	準工業・工業地域、法22条地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所, 学校, 集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年4月27日
敷地面積	5,764 m ²	作成者	森、越智
建築面積	2,653 m ²	確認日	
延床面積	8,008 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算: 建設(青), 修繕・更新・解体(緑), 運用(黄), オンサイト(白), オフサイト(黒)

①参照値 100%
②建築物の取組み 92%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.3**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.5**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	『お客様のための真価を追求し、極める物流ショールームの未来形』を提供する。 ①改善による合理化・効率化の追求 ②お客様の心を掴むおもてなし空間の追求 ③地域との繋がりの追求	その他 0
Q1 室内環境	・遮音性を高め室内環境を向上させた。 ・有害物質を発生させない材料を全面的に使用すると共に換気用の外壁給排気ガスを十分に離れた上、給気用ガレリは工場に面している南側には配置しないことで空	Q3 室外環境(敷地内) ・周辺環境に配慮したポリューム、色彩、植栽計画とし、良好な景観を形成。
Q2 サービス性能	・リフレッシュスペースの確保、空間特性に合わせた内装計画等により快適性を向上。 ・メンテナンスが容易な仕上げ材や更新頻度の低い設備配管を採用すると共に設備機器の更新用スペースを設けるこ	LR3 敷地外環境 ・ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減、敷地内インフラの整備等により地球環境・地域環境に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー	・外皮性能の向上によってBPI値0.9以下を確保するだけでなく、ナイトバージ・太陽光発電設備など自然エネルギーの直接利用も積極的に採用している。 ・高効率機器の採用及び省エネ制御を導入し、BEI値0.9以下を実現。	
LR2 資源・マテリアル	・節水型便器や自動水栓等を使用し使用水量を低減させた。 ・再生資源を利用し、汚染物質含有資材の使用を回避した。 ・グリーン調達品目及びエコマーク商品を積極的に採用	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム 2017年版

大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H29-0013

Osakafu-新築・既存 2017V1.0

【建物概要】		建物名称	トヨタL&Fカスタマーズセンター大阪					
		建設地	吹田市芳野町1500-51					
		用途/区分	集会所 事務所 学校					
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
	CO2削減						4	
	省エネ対策						4	
	みどり・ヒート アイランド対策						3	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	
エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】								
省エネルギー対策		① CO2削減						
		② 省エネ対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.5	4	
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価		建物全体	3.0	4		
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価						5.0
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価						4.0
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価						2.9
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価						3.0
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価						3.4
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0		
その他								
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項			
		太陽光発電設備			太陽光発電による自然エネルギー利用を行っている。			
		電気自動車充電スタンド			電気自動車の充電設備が設置されている。			
特に配慮した事項								